被災地から

舞の再生 面に託す

大船渡の平山桑吾さん

浦浜念仏剣舞に寄贈

東日本大震災の津波で装束や道具類のほぼ全てを失った大船渡市の県指定無形民俗文化財「浦浜念仏剣舞」に、再生を願い面5枚が届けられた。贈り主は同市日頃市町の平山桑吾さん(76)。約20年前に彫師から直接譲り受けたものだが、「生かしてもらえば面も喜ぶ」と再生を願い提供を決めた。

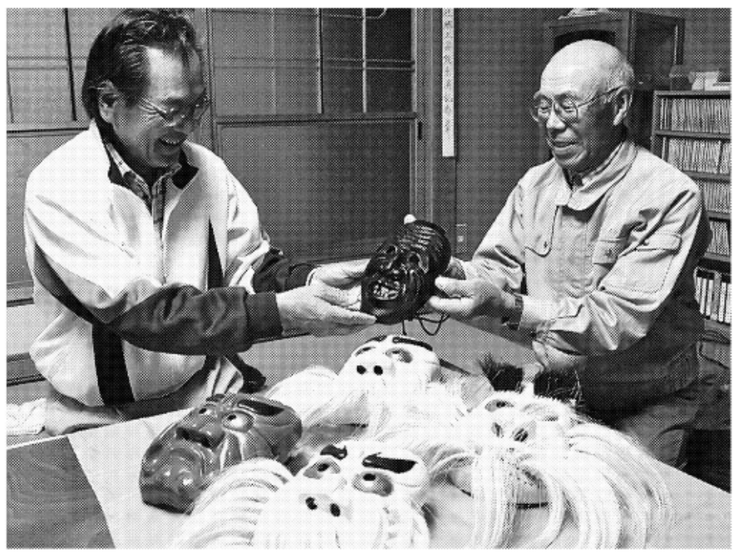
同市三陸町越喜来で伝承されている浦浜念仏剣舞は、面や太鼓、装束などを保管していた建物が跡形もなく流失。17枚あった面は後日8枚見つかったが、主役となる「ささら」などは欠けたままだった。

平山さんは浦浜念仏剣舞の窮状を知り、5月初めに自宅に保管していたささらをはじめ5枚の面を寄贈した。

「ただ置いておくよりも面がなんぼ喜ぶか…」と平山さん。浦浜念仏剣舞保存会の古水力会長(65)も「これだけ面があると助かる」と感謝する。

浦浜以外にも、念仏剣舞が多数伝わる同市。平山さんの生家がある同市日頃市町には「板用肩怒剣舞」があるが、「昔は跡取りにしか伝えられなかった」という。長兄の半治さん（故人）は後に「踊りたくても踊れなかった」と振り返る。

平山さんの生家や市郷土芸能協会の会長も務めたが、平山さんは「踊りたいが、お礼もできないが、よかったら日頃市町でも踊りたい」と恩返しも検討している。



「生かしてもらえば面も喜ぶ」。被災した浦浜念仏剣舞に面を寄贈した平山桑吾さん(右)と、「ささら」を受け取る古水力さん

今回寄贈した面は、個人的に日頃市町の彫師から譲り受けたもの。浦浜で使っていた面も〝日頃市生まれ〟だといい、古水さんは「ご縁があったんだな」と感慨深げ。

本来の面とはひげの有無や顔つきなどに違いがあるが、お盆に予定している供養の舞には新しい面を仲間入りさせる予定だ。「何のために」エールを送る。

当日は「自然との調和」をテーマに、会場で募金活動を展開。集めた募金で広葉樹の苗木を購入し、被害の大きかった陸前高田市などの山林に植樹する予定で、豊かな山と海の復興を目指す。

千羽鶴 海越え元気運ぶ

米国から手紙、写真も

大槌小

復興への希望が込められた千羽鶴が、米国の小学校から大槌町の大槌小（小野寺美恵子校長、児童195人）＝山田町の陸中海岸青少年の家で始業＝に届いた。米国では、なじみのない折り紙や千羽鶴だが、一つ一つ丁寧に折られていた。励ましの手紙も添えられ、児童は勇気づけられている。

物資は米カリフォルニア州のクラグモント小学校から。千羽鶴のほか、写真や手紙、Tシャツ、大きな折り鶴などが届いた。同校は、日本に当てはめると幼稚園から小学5年生までが入学しており、一人一人が手紙で激励の言葉をつづっている。手紙には日本語訳の文章も付き、児童が読めるようになっている。

新田亮介君（6年）は「丁寧に作られた千羽鶴が印象深かった。一度は向こうに行ってみたい」とにっこり。小野寺校長は「子どもたちが元気になる。とてもありがたい」と感謝した。

これまで両校が交流したことはなく、宮古市出身の東京海洋大准教授の佐々木剛さん(44)が仲介。佐々木さんは同州に滞在していたほか、長男を交通事故で亡くしたローレンス科学館（同州）の副館長に宮沢賢治の作品を贈り、励ましたことで地域の人々と親交を深めたという。

佐々木さんは「今回の震災で、向こうでは復興支援の機運が高まっている。子どもたちに伝えていきたい」と、児童へ丁寧に説明していた。

米国から届けられた千羽鶴や手紙を佐々木剛さん（左から2人目）から受け取る大槌小の児童＝山田町

陸前高田の一本松 CDに

やなせたかしさん製作へ 売上金は寄付

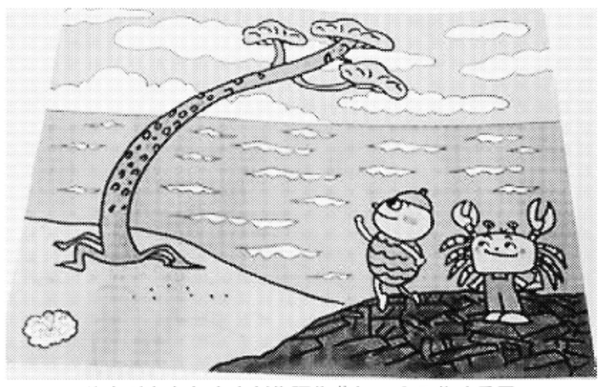
アンパンマンの原作者やなせたかしさん(92)は、津波に耐えて唯一残った陸前高田市の高田松原の松の木をテーマに「陸前高田の松の木」と題した歌のCDとハンカチを7、8月をめどに自費製作・販売し、売上金などを同市や高田松原を守る会に寄付する方向で準備を進めている。

「陸前高田の松の木」表現。「ぼくらは生きる 負けずに生きる 生きていくんだ オーオーオー」と繰り返し、力強いメッセージを発している。

CDは今月末に収録予定。出来上がったCDとハンカチは陸前高田市や高田松原を守る会に送るほか、一般向けにも販売。売り上げの全額と著作権は同市などに寄付・譲渡する予定だ。

やなせさんは、陸前高田市出身の編集者平松利津子さん(52)＝東京都世田谷区＝から唯一残った松の木の話を聞いて感動し、「少しでも現地を励ますことができればいい」とCD製作を手掛けた。

やなせたかしさん



やなせたかしさんが作詞作曲し、CD化する予定の「陸前高田の松の木」原画©やなせたかし

がれきの中 安全通学

山田南小 児童、交通ルール学ぶ

しっかりと手を挙げて横断歩道を渡る山田南小の児童ら＝山田町

山田町飯岡の山田南小（佐賀敏子校長、児童258人）は23日、同校近くの通学路で交通安全教室を開いた。がれきが残る学区内の信号はいまだにストップしたままで、参加した1、2年生67人は真剣に交通ルールを学んだ。

山田町交通指導隊や宮古署山田交番、被災地支援のため同町入りしている神奈川県警から計14人が指導した。

児童は横断歩道で左右の安全をしっかり確認し、手を挙げて道路を渡った。がれきが落ちて危険な場所がないかどうかも点検した。

同校周辺は復旧工事に携わる大型車両などが頻繁に行き交い、交通量も多い。2年の針生優輝君は「車に気を付けて学校に行く」と元気良く誓い、1年の藤原統君は「危ない所が分かった」と話した。

音楽通じ復興へ一歩

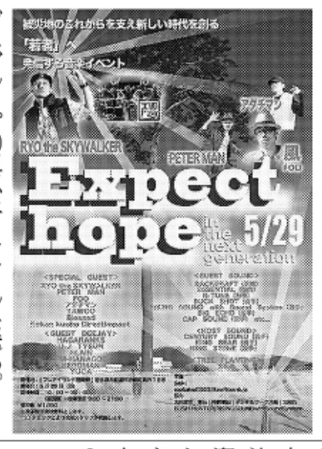
29日、大船渡でイベント

県内外から20組参加

東日本大震災で被害を受けた陸前高田市、大船渡市、釜石市の若者有志は29日、大船渡市赤崎町のフレアイランド尾崎岬で復興支援音楽イベント「Expect hope」を開く。音楽を通じて知り合った仲間や知人らに呼び掛け、地元の若者の復興に向けた動きを盛り上げる。

国内外で活動するレゲエグループ20組以上が参加。国内を代表するレゲエアーティストの「RYO the SKYWALKER」さんらをゲストに迎えるほか、県外で活動するグループも参加し、次世代を担う若者たちにエールを送る。

当日は「自然との調和」をテーマに、会場で募金活動を展開。集めた募金で広葉樹の苗木を購入し、被害の大きかった陸前高田市などの山林に植樹する予定で、豊かな山と海の復興を目指す。



地元の若者に向けた震災復興音楽イベント「Expect hope」を紹介するポスター

イベントは、「RYO」さんが先月上旬、本県の知人を通じて陸前高田市などに救援物資を届けたことがきっかけ。イベントの開催を呼び掛けた有志の一人、陸前高田市出身のSeikiさん(30)は「いつまでも立ち止まってばかりいられない。地元の若い人たちを盛り上げ、復興への動きを根付かせたい」と思いを語る。

同イベントは午前10時スタート。参加費千円（ただし津波被災者は無料）。

プロの将棋見よう

28日、釜石で指導対局

日本将棋連盟は28日、「被災復興将棋イベント」を釜石市新町の双葉小で開く。島朗九段らプロ棋士8人が指導対局を行い、将棋盤や駒、図書などを参加者に贈る。

対象は、将棋に興味のある被災地の小中学生とその家族、一般の将棋ファンで、ルールを知らない人も参加できる。

島九段以外のプロは鈴木大介八段、行方尚史八段、飯野健二七段、橋本崇載七段、矢内理絵子女流四段、山田久美女流三段、藤田綾女流初段。

参加無料。昼食を用意する。時間は午後0時半から同2時半まで。26日までに同連盟釜石支部の土橋吉孝さん（090・9037・1096）に申し込む。

浄土ケ浜 観光拠点再開

宮古

再開した浄土ケ浜ビジターセンターの休憩ラウンジ

宮古市日立浜町の浄土ケ浜ビジターセンターは23日、東日本大震災後休止していた施設を一部再開した。浄土ケ浜周辺の海沿いの観光施設で始動は初めてとなる。

駐車場と同じ高さの3階フロアにあるラウンジとギャラリーを開放。周辺の自然環境を紹介する写真展示のほか、職員手作りの化石発掘体験コーナー、貝殻を使った遊具など子ども向けスペースを用意した。2階フロア以下の再開時期は未定。

浄土ケ浜周辺は、津波で壊された遊歩道が通れず、観光船での遊覧もできない状態。近くの駐車場に仮設住宅の建築も進む。同センターの山根一美事務局員は「皆さんの心を少しでも癒やせるような施設にしたい」と市民の来場を呼び掛ける。

利用時間は午前9時から午後5時まで。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。